

R6. 8. 23	令和6年度	<b>参考資料4</b>
第1回 佐世保市歯・口腔の健康づくり推進協議会		

## 令和5年度受託研究報告書

研究課題：歯周病検診の実施及び評価と佐世保市の  
歯・口腔の健康づくりに関する研究

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔保健学

令和5年4月1日～令和6年3月31日

## 背景

佐世保市では、市民の口腔内状況の把握と改善のため、昭和 60 年 4 月から佐世保市歯科医師会の協力のもと、成人病巡回健診に併せた歯科健診を実施していた。平成 12 年度からは保健所内において、平成 15 年度からは地域の歯科医院において歯科健診が受けられるようにと継続してきた。離島（黒島、高島、宇久島）においても、島ごとに実施する総合健診の日程に合わせて歯科健診を継続してきた。

歯科口腔保健の推進に関する法律が平成 23 年に制定され、長崎県はそれに先立ち歯・口腔の健康づくり推進条例を平成 21 年に制定した。佐世保市でも平成 24 年に佐世保市歯・口腔の健康づくり推進条例を制定し、歯科健診を行うことで市民の口腔状況の把握、保健指導と歯科医院への受診勧奨の推進に努めてきた。

また、令和 4 年度には「第 1 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」の最終評価を行い、令和 5 年度に「第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」を策定し、令和 6 年度から実施することとしている。

## 方法

令和 5 年度も例年通り、佐世保市保健福祉センター所内での歯科保健相談および成人歯科健診、佐世保市が抱える離島での成人歯科健診を実施した。また、佐世保市歯科医師会への委託による佐世保市成人歯科健診（節目歯科健診を含む）も実施した。対象は、高校生を除く 18 歳以上のすべての市民 192,870 名（※1）であった。

節目年齢の満 40 歳・満 50 歳・満 60 歳に該当する 8,674 名の市民には無料ハガキを送付し、歯科健診を無料で委託歯科医療機関にて受けることができるようにした。

妊産婦歯科健診についても、妊婦・産後 1 年未満を対象に無料で歯科健診を受けることができるように母子健康手帳の交付時に無料券を渡した。

※1 人口の値は、佐世保市のホームページで公開されている令和 5 年 10 月 1 日現在の佐世保市年齢別推定人口から算出

## 結果

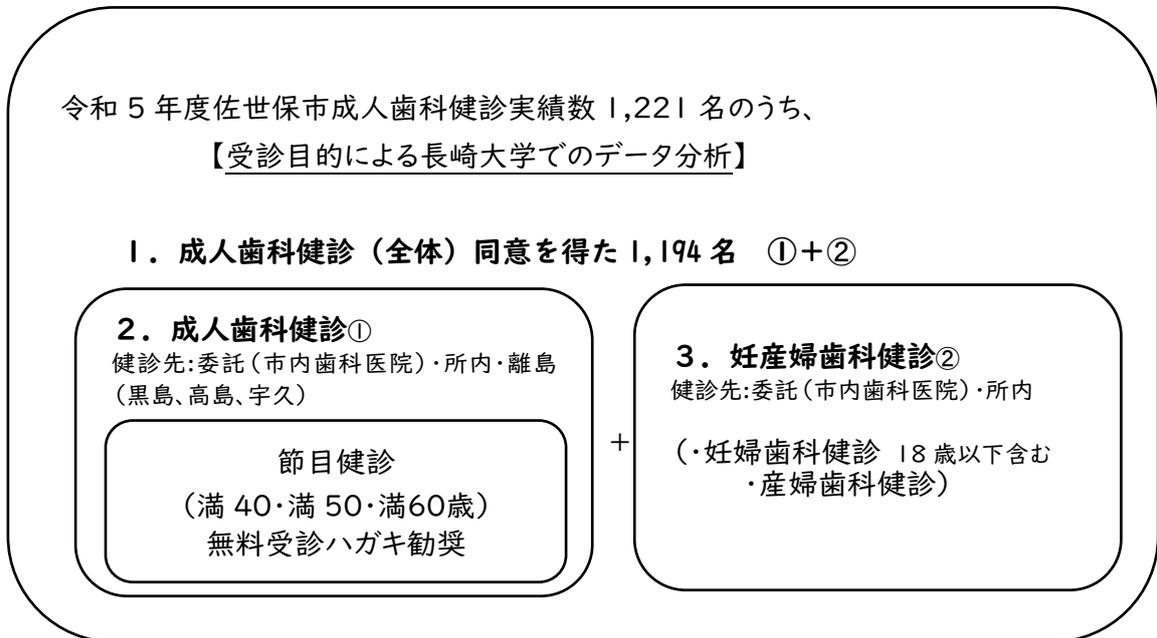
令和5年4月1日から令和6年3月31日までの成人歯科健診受診者は1,221名であった。そのうち長崎大学でのデータ分析について同意が得られなかった27名を除外した1,194名について分析を行った。以下の3つの項目にわけて結果を示す。

1. 1,194名の成人歯科健診の全体の受診状況について
2. 成人歯科健診（節目健診を含む）の状況について
3. 妊産婦歯科健診の状況について

表に示す年齢階級の定義は以下の通りである。

20歳：15歳から24歳	30歳：25歳から34歳	40歳：35歳から44歳
50歳：45歳から54歳	60歳：55歳から64歳	70歳：65歳から74歳
80歳：75歳から84歳	90歳：85歳以上	

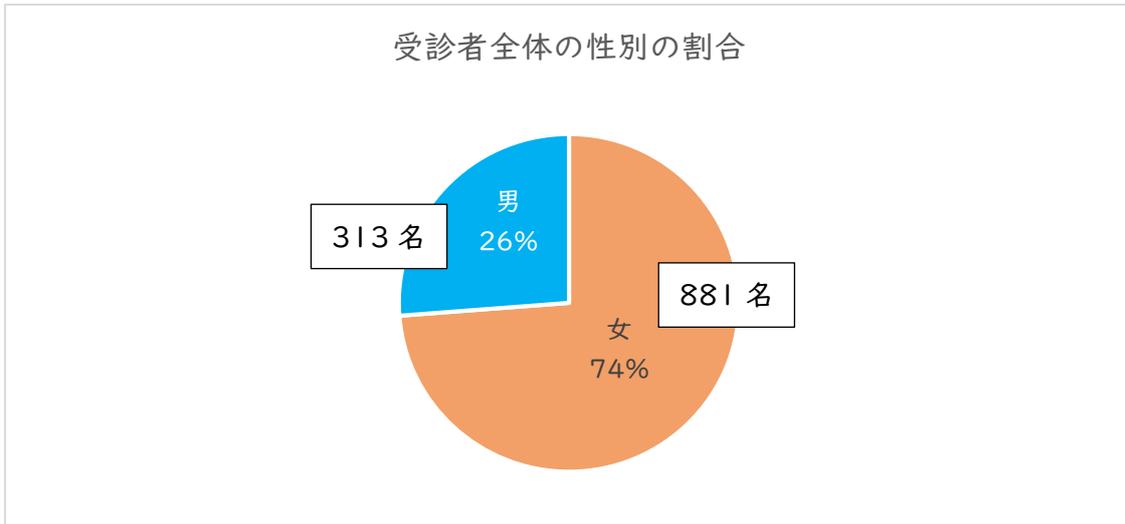
### ○佐世保市の歯科健診 全体の概要



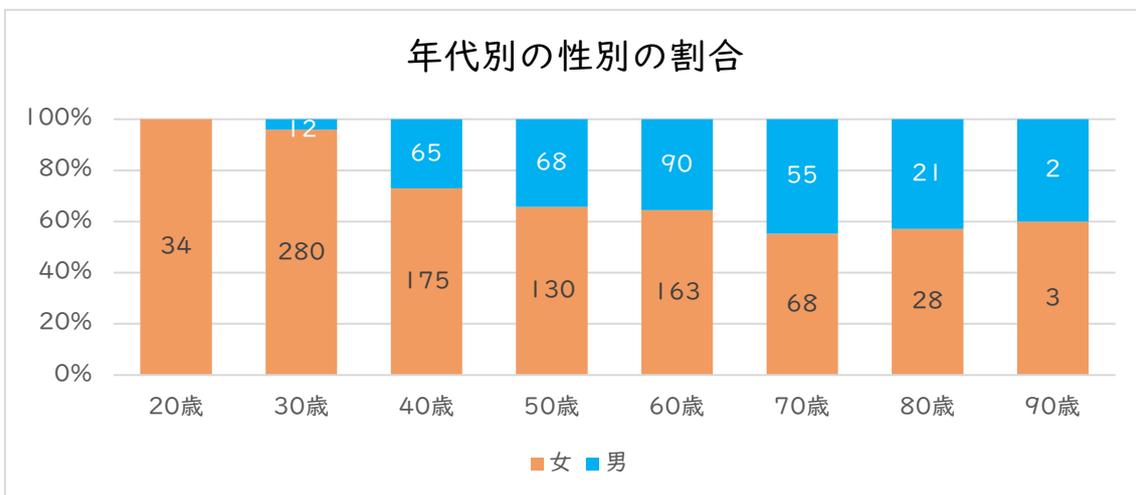
## 1. 1,194名の成人歯科健診の全体の受診状況

解析の対象である1194名は佐世保市の人口192,870名に対して0.6%であった。

### ① 性別



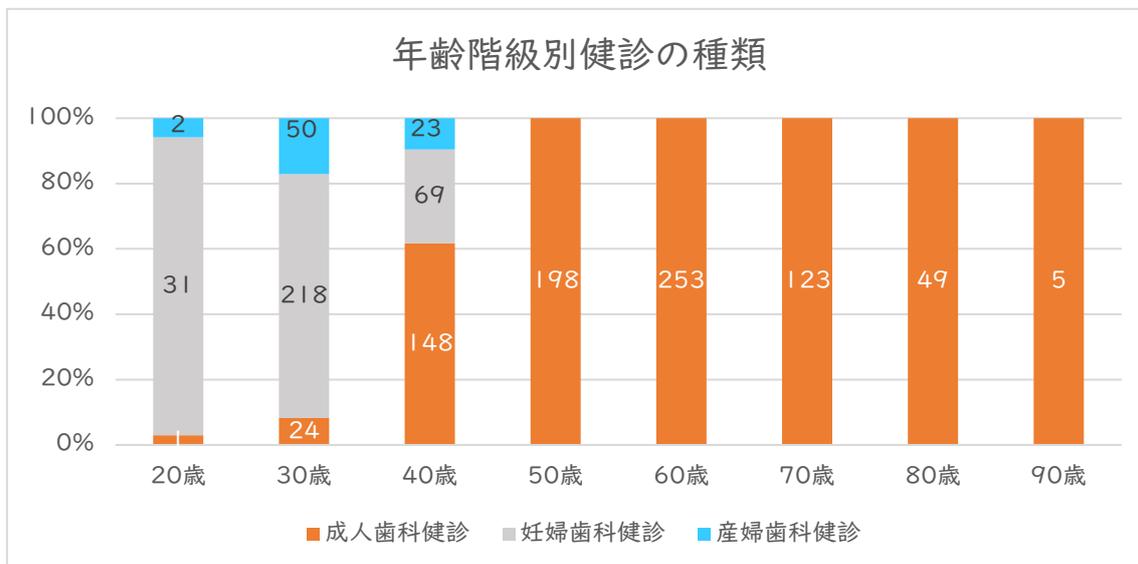
### ②年代別の性別の割合



最年少は16歳で最高齢は89歳であった。

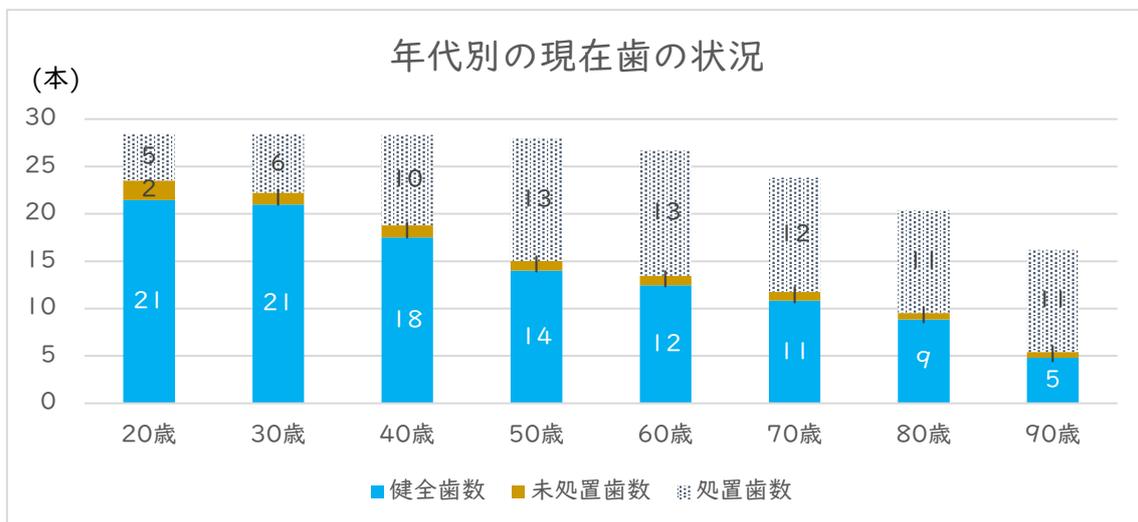
いずれの年代においても女性の割合が高かった。

### ③年代別健診の種類



妊産婦健診（393名）のほとんどは妊婦健診（318名）を目的としており、産婦健診の受診者の割合は24%（75名）であった。成人歯科健診受診者のほとんどは40歳以降であった。

### 年代別の現在歯の状況

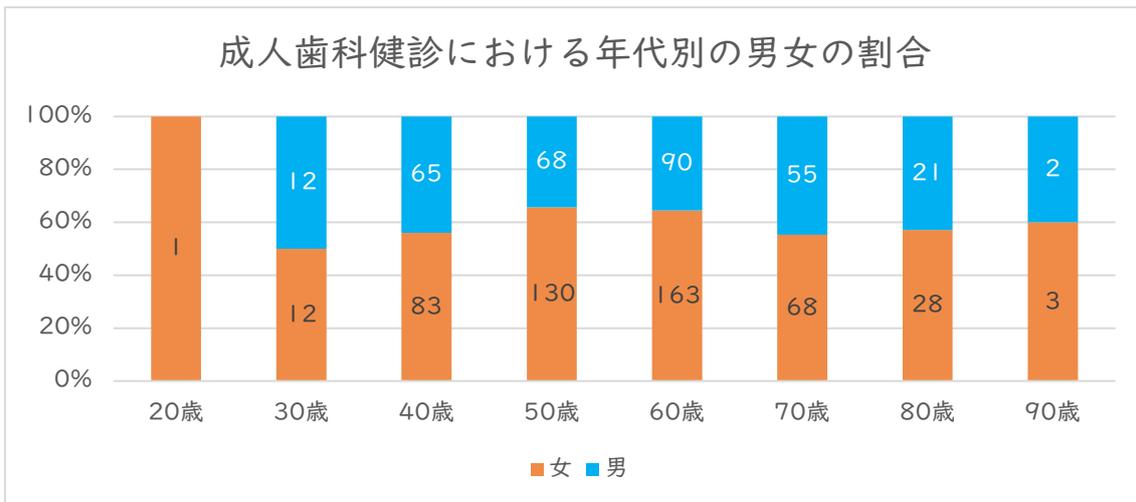


未処置歯は20歳で2本、30歳以降すべての年齢階級において1本であった。処置歯については20歳と30歳では5、6本であったものが、40歳で約2倍の10本であった。現在歯数は50歳から減り始めた。

## 2. 成人歯科健診について

成人歯科健診の受診者であった 801 名のうち節目年齢にあたる満 40 歳、50 歳と 60 歳の受診者数は 453 名（57%）であった。

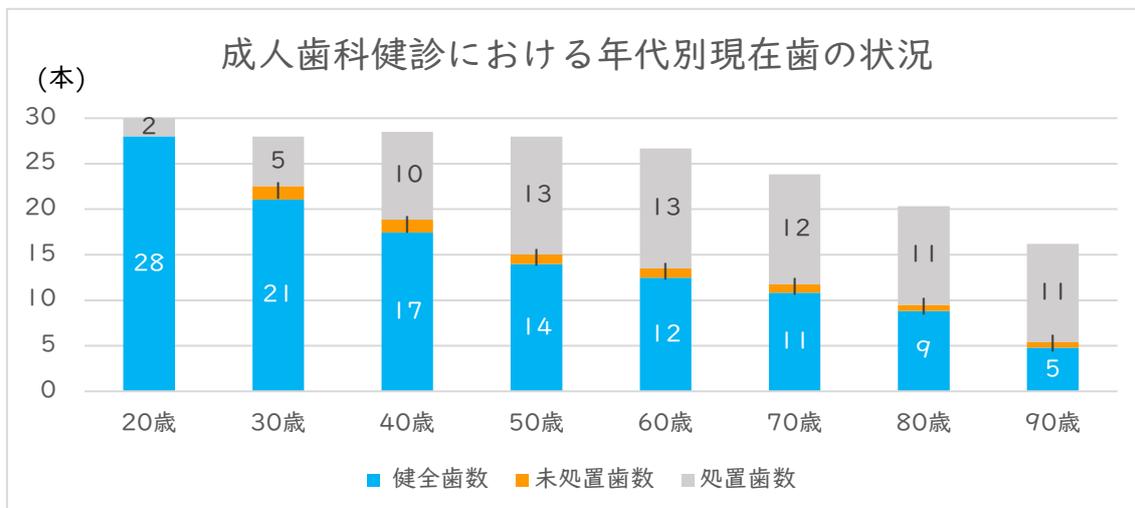
### ①成人歯科健診における年代別の男女の割合



数値は人数を示す

女性の占める割合が多く、全体では 61%（801 名中 488 名）であった。

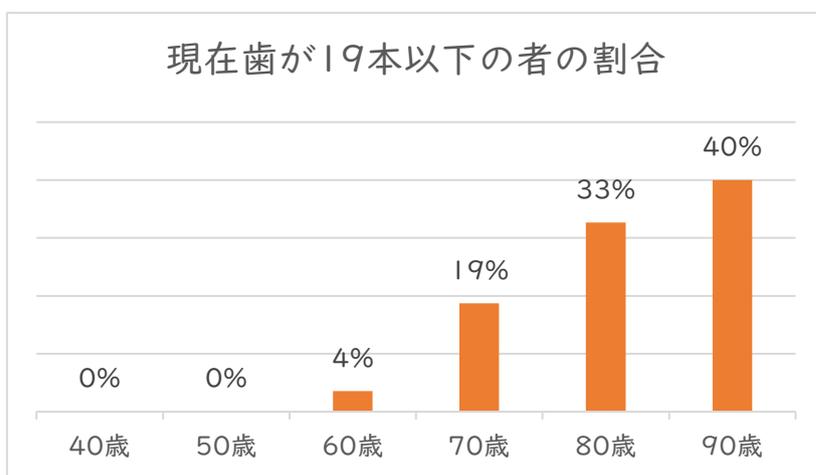
## ②成人歯科健診における年代別現在歯の状況



数値は平均の歯の本数を示す

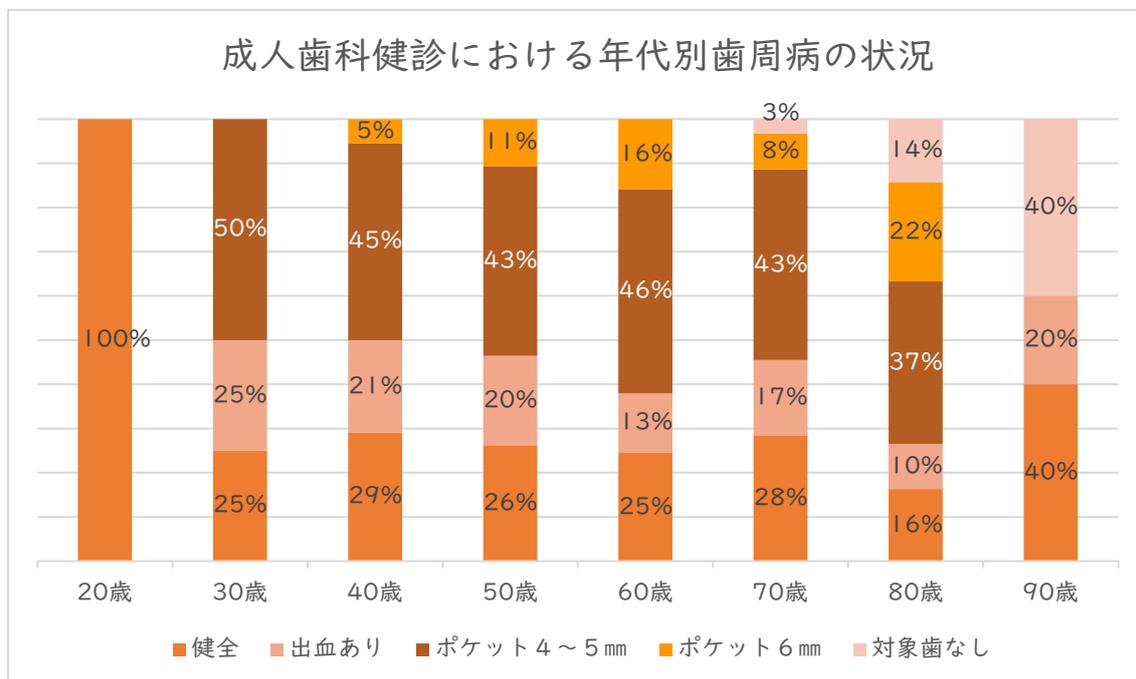
未処置歯については、30歳以降で平均1本であった。処置歯については30歳代で5本であったものが40歳で2倍に増加し、60歳で健全歯よりも多い値を示した。

第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「18歳以上における未処置を有する者の割合は16%」を目標にしている。令和5年度においては、未処置を有する者の割合は36%（801名中288名）であった。



また、「40歳以上における自分の歯が19本以下の者の割合は9%」を目標にしている。令和5年度の40歳以上における19本以下の者の割合は7%（762名中50名）であった。佐世保市成人歯科健診結果のみで見ると、全体の値ではこの値は目標に達しているが、70歳以降で19本以下の者の割合が目標値を超え増加している。なお、90歳においては受診者が少なく19本以下の者の割合は40%（5名中2名）であった。

③成人歯科健診における年代別の歯周病（歯肉炎と歯周炎）の状況

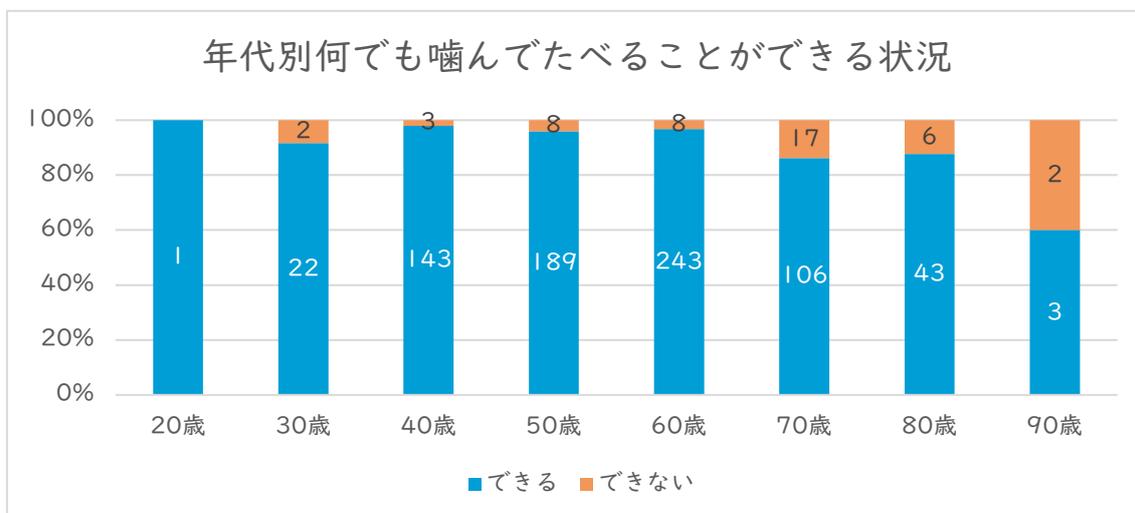


出血ありは歯肉炎があることを示しており、ポケットの深さが4mm以上であることは歯肉炎よりも症状が進行した歯周炎があることを示している。

受診者の少ない20歳（1名）と90歳（5名）を除いた年代において、30歳において歯肉炎をもつ者の割合は25%で、歯周炎をもつ者の割合は50%であった。40歳では歯周炎がさらに悪化した重度の歯周炎をもつ者の割合が5%認められ、70歳で対象歯を持たない者も認められた。

第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「40歳以上における歯周炎を有する者の割合は44%」を目標にしている。佐世保市成人歯科健診結果のみで見ると、令和5年度の40歳以上における歯周炎を有する者の割合は56%（762名中426名）であった。

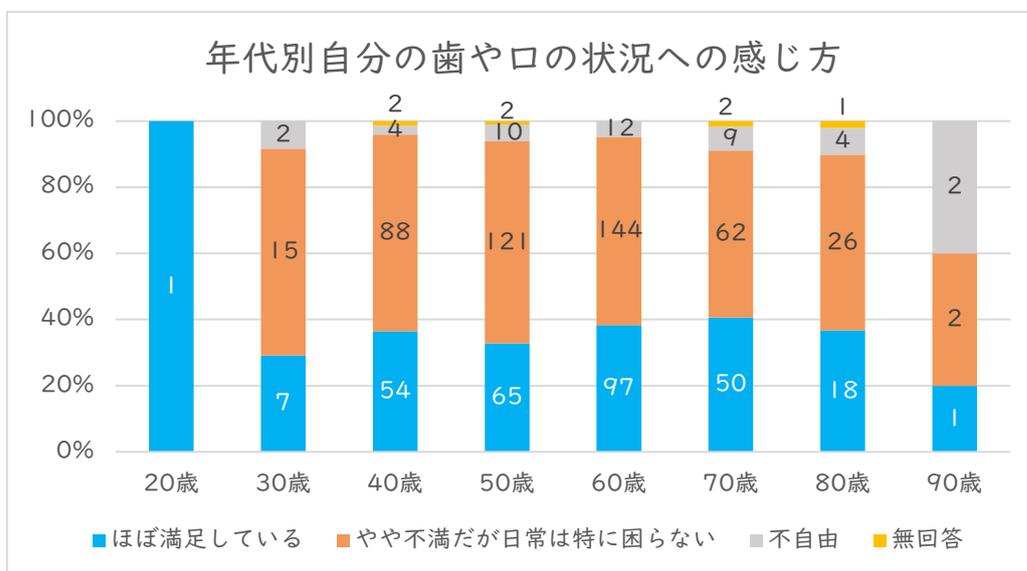
④何でも噛んで食べることができる者の割合



数値は人数を示す

第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「50歳以上おける咀嚼良好者の割合を80%」を目標としている令和5年度の50歳以降の結果は、佐世保市成人歯科健診結果のみで見ると、93%（600名中556名）であった。

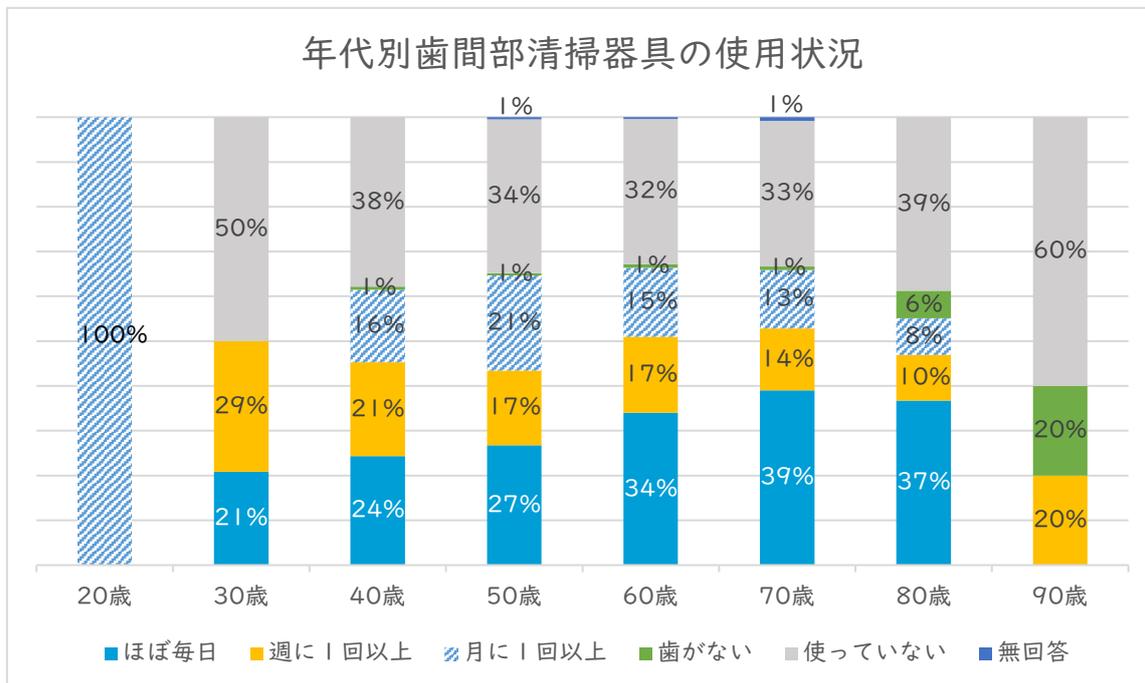
⑤歯や口の状態についてどのように感じているかについて



数値は人数を示す

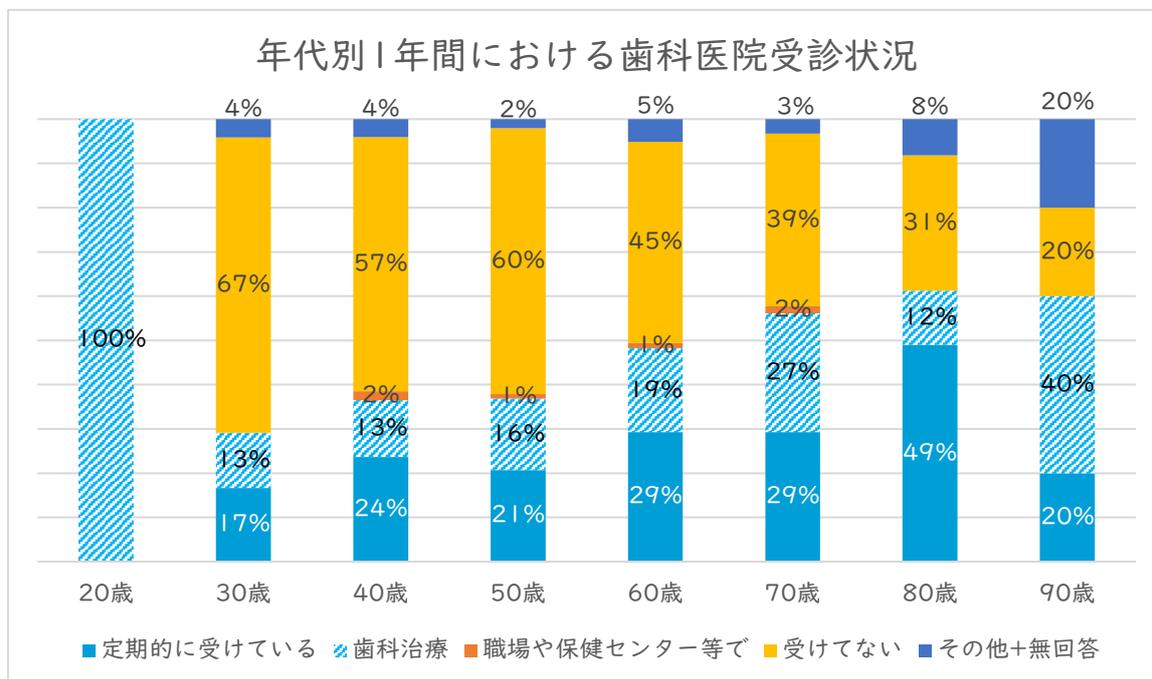
受診者の少ない20歳代（1名）と90歳代（5名）を除いた30歳から80歳において、歯や口の状況に不自由と感じている者の割合は3%から8%であった。

⑥歯間部清掃器具の使用頻度



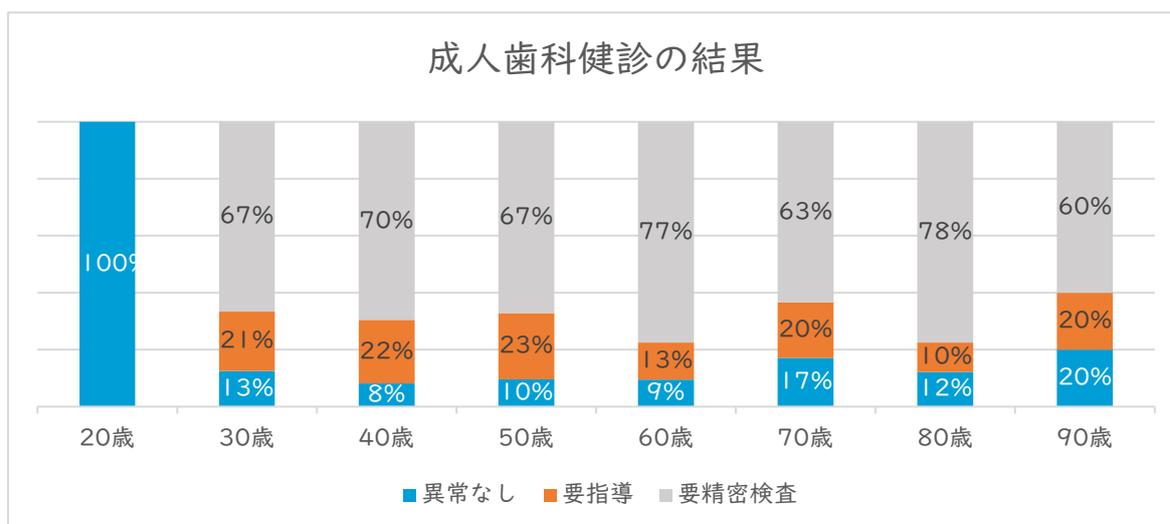
歯間部清掃器具の使用頻度は30歳の20%から70歳に向けて増加するが、40%に満たない状況であった。歯間部清掃器具を使用しない者の割合はどの年代においても30%を超えていた。

⑦ここ1年間での歯科医院の受診状況



第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「過去1年間における歯科健診を受けた者の割合が65%」を目標としている令和5年度における歯科健診を受けた者の割合は、佐世保市成人歯科健診結果のみで見ると、50%（801名中397名）であった。望ましい歯科医院の受診状況は定期受診であり、30歳代から80歳代にかけて17%から49%へと増加が認められた。

⑧成人歯科健診の結果



成人歯科健診の結果、全体で異常のない者の割合は11%であり、精密検査を必要とする者の割合は71%であった。

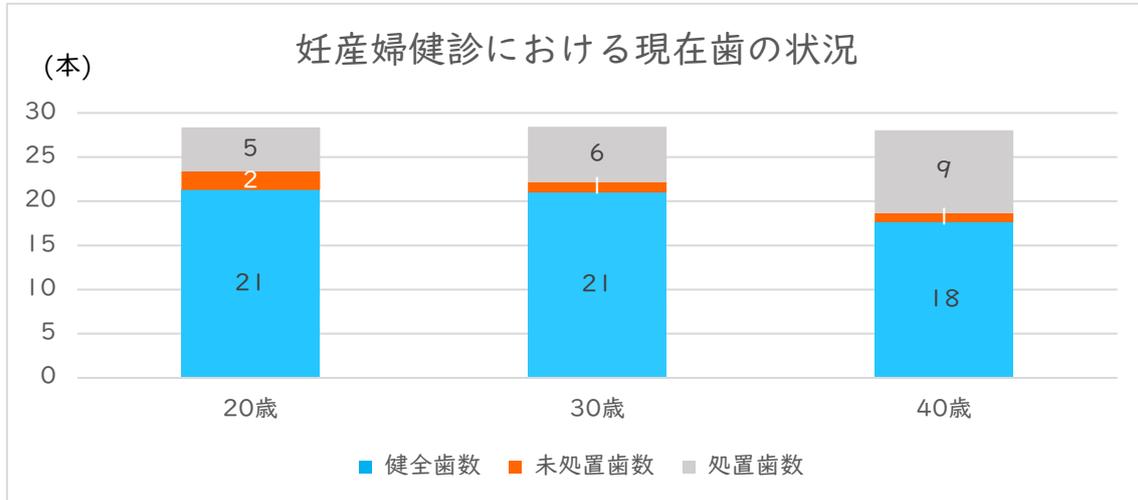
⑨満40歳、満50歳と満60歳を対象にした成人歯科健診の結果

	佐世保市人口 ①	受診者数 ②	人口に対する 受診者の割合 $② \div ① \times 100$	要精密検査と 判定された者 (人) ③	要精密検査と 判定された者 のうち歯科医 院を受診した 者(人) ④	歯科医院受診 者の割合 $④ \div ③ \times 100$
満40歳	2675	130	5%	96	69	72%
満50歳	3247	147	5%	110	76	69%
満60歳	2752	176	6%	151	111	74%
合計	8674	453	5%	357	256	72%

佐世保市では満40歳、満50歳と満60歳を対象に無料の歯周病検診受診勧奨ハガキを送付している。それぞれの年齢における歯周病検診の受診割合は5%であった。さらに、検診の結果、要精密検査と判断された者のうちその後の歯科医院を受診した者の割合は72%であった。

### 3. 妊産婦健診について

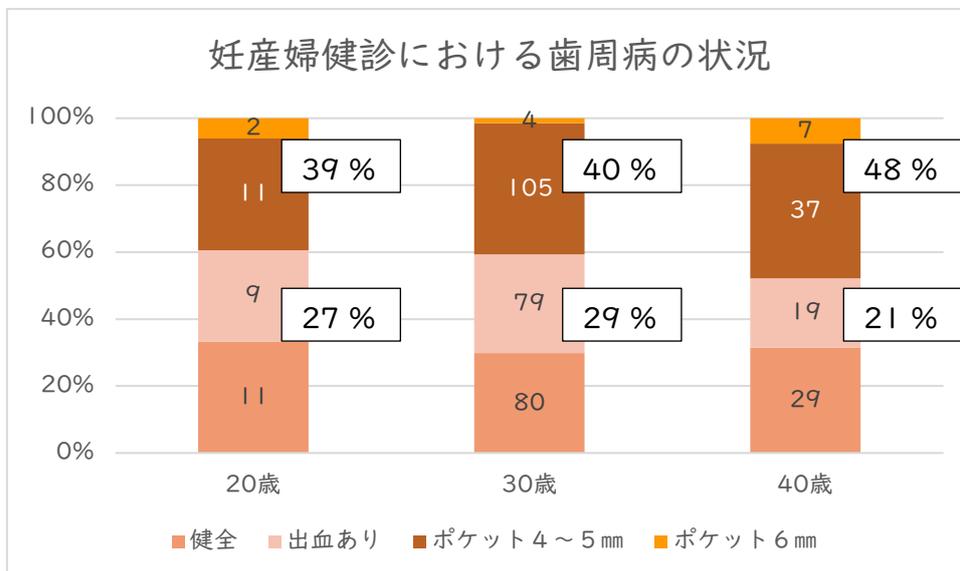
#### ①妊産婦健診における現在歯の状況



数値は平均の本数を示す

現在歯の合計は20歳と30歳で28本、40歳で27本であった。

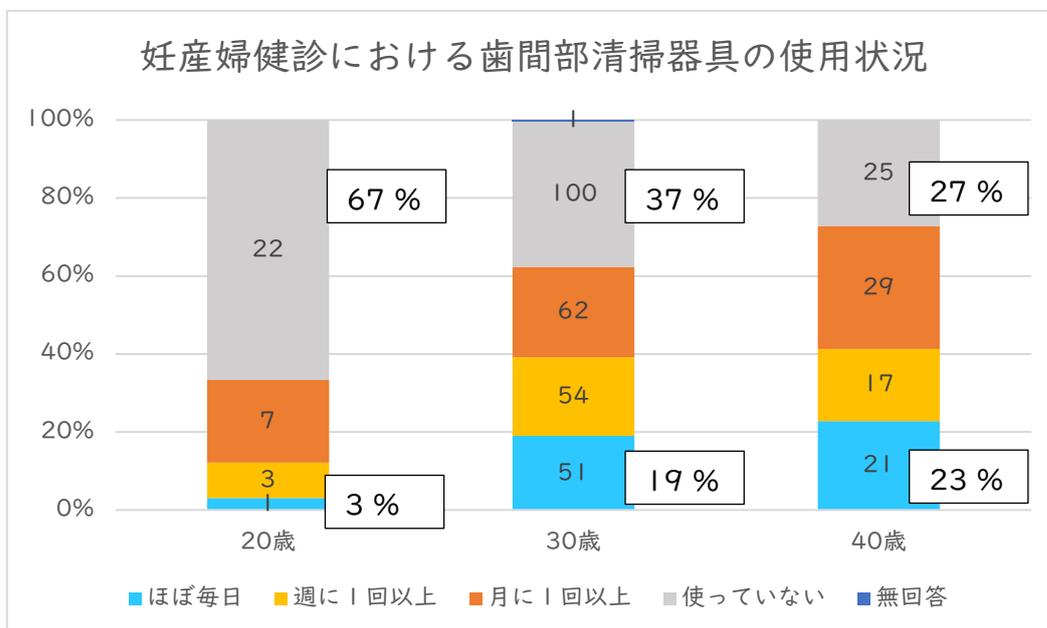
#### ②妊産婦健診における歯周病（歯肉炎と歯周炎）の状況



数値は人数を示す

20歳と30歳においては歯肉炎（出血あり）が30%程度であり、歯周炎（ポケット4～5mm+ポケット6mm）は40%程度に認められた。40歳においては重度の歯周炎へと進行している者の割合が多くなり、歯周炎の割合は48%であった。

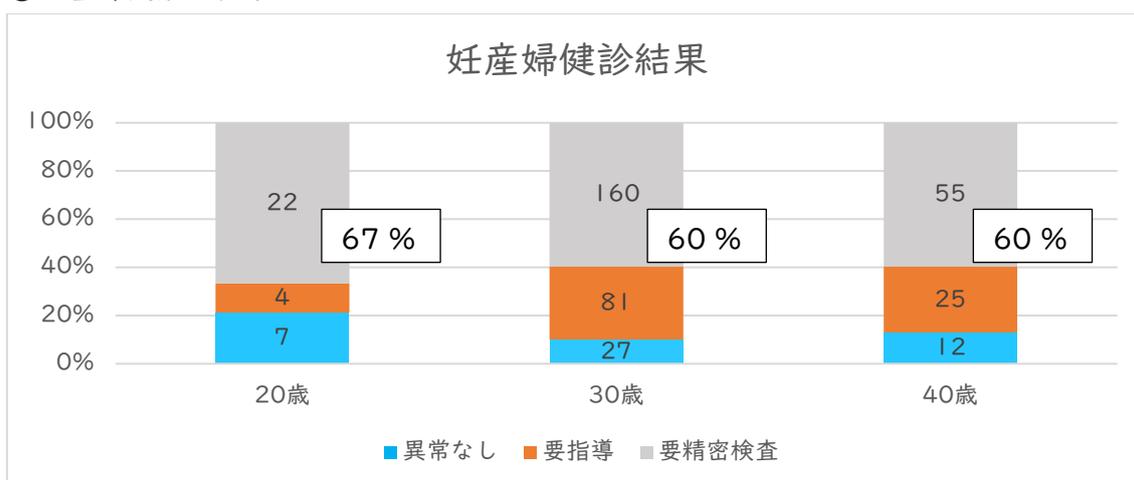
### ③妊産婦健診における歯間部清掃器具の使用頻度



数値は人数を示す

20歳、30歳と40歳になるにつれて、歯間部清掃器具の使用状況は増加しているが、毎日使用している者は少なく、20歳では33名中1名（3%）であり、30歳と40歳では20%程度であった。

### ④妊産婦健診の結果



数値は人数を示す

妊産婦健診の結果、要精密検査の割合は全体で60%であった。

## 考察

令和5年度の歯科健診受診者の割合は0.6%であったが、無料のクーポン券を送付したことで無料のクーポン券を送付しない年齢と比較しておおよそ10倍の受診率の向上が認められ、節目健診の受診率は5%であった。節目健診の結果、要精密検査と判定された者の割合は79%（453名中357名）であり、その後歯科医院を受診した者の割合は72%（357名中256名）と高い割合であった。

歯周炎の原因となる細菌のうち高い病原性をもつ細菌は、18歳以降に唾液から感染することが知られている。令和5年度の佐世保市成人歯科健診の結果から30歳で50%の者に歯周炎が認められ、40歳で5%の者に重度の歯周炎が認められ、50歳、60歳と経年的に重度の歯周炎は11%、16%と増加が認められた（2-③図）。一方、70歳では歯周炎ありと重度の歯周炎ありの者の割合に減少が認められた。これは、70歳以降、現在歯が19本以下の者の割合が急激に増加していることから（2-②図）、歯を失うことで歯周炎をもつ者の割合が減少したと考えられる。

歯周病（歯肉炎と歯周炎）を予防するためには歯ブラシのみならず歯間部清掃器具を使用する習慣や定期管理が重要であることが知られている。佐世保市の住民の歯間部清掃器具の使用習慣については、30歳から70歳にかけて年齢増加とともに歯間部清掃器具の習慣がある者の割合の増加が認められた（2-⑥図）。しかし、毎日使用する者の割合は40%を超えていなかったことから成人歯科健診を通じて歯間部清掃器具の指導の継続は必要と考えられた。

第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「過去1年間における歯科健診を受けた者の割合が65%」を目標にしている。歯周病やむし歯の予防のための観点から望ましい歯科医院の受診状況は定期受診である。佐世保市成人歯科健診受診者の問診票からみると、2-⑦の結果から定期健診の受診の割合は、30歳から50歳にかけて20%前後、60歳と70歳で30%程度、80歳で50%程度と年齢とともに増加が認められた。ここ1年間で歯科医院を受診していない者の割合は30歳で67%と高い割合で年齢とともに減少傾向が認められた。

また、佐世保市では令和5年度まで成人歯科健診の無料のクーポン券を満40歳、50歳と60歳に送付していた。令和6年度からはさらに満30歳にも無料のクーポン券を送付予定である。20歳ごろに高い歯周炎の病原性細菌に感染し30歳で半分の者に歯周炎が認められたことからできるだけ早期に歯科健診受診を促すことは、その後の歯周炎の発症予防や重症化予防に貢献できると考えられる。むし歯については、30歳で処置歯5本が40歳でその2倍の10本となり、さらには60歳で健全歯数を超えることが分かった（2-②図）。このことから30歳から歯科健診を促すことでその後のむし歯予防管理にも貢献できると考えられる。国としても生涯を通じた切れ目のない歯科健診の実現に向けて地域の歯周疾患対策を奨励している。

妊産婦健診については、そのほとんどが妊婦健診を目的としており、産婦健診の占める割合は低く 24%であった(1-③図)。このことから出産後の産婦健診において受診しやすい環境づくりが必要であると考えられた。

最後に、歯周病は全身の健康状態との関連、特に糖尿病との関連が認められていることから次のことを提言する。KDB データ(国民健康保険データベースシステム)を活用し、糖尿病を発症しており、かつ歯科医院を受診していない者に対して成人歯科健診の受診勧奨をすることでその後の歯周病の重症化予防に貢献できるのではないかと考えられる。